



チングルマ

一年前の夏には葬儀が続きまして。高齢の方、また、長い闘病生活をされていた方のご逝去は、心の中にそれなりに受け止める余地がありました。親しくしていただいたことへの感謝、それぞれの方々の個性ある生き方を通して学ばせていただいたこと、その方の担われた課題に思いを寄せることが出来たことなどを、その方の死を通して、改めて心に刻むことが出来ました。長生きすれば、それだけ、たくさんの経験、思い出を与えられて幸いです。私たちの国籍は天にあるとの思いも新たにしました。

ところが、40歳の若さで、結婚直後の、突然の、甥の病死には、驚き、嘆かざるを得ない苦しみが伴いました。時薬というものがあるとは言います。日常の流れの中に生きる者として、現実の日々の歩みが続けなければなりませんので、徐々に受容していくものですが、あの時から一年が過ぎ去りました。この夏、改めて一年の記念の時を迎え、遺族の悲しさ、寂しさを目の当たりにして、なんと慰めていいかわからないほどです。



コケモモ



コマクサ

愛する人を失った時、誰でも別離を受け入れがたく、なぜこのことが起こったのかと理由を求めてしまいます。死因となるいろいろな状況がそれなりにあることは理解しても、何とか避けられなかったか、自分自身がなにか対処できなかったか、自分に落ち度があったのではないかと、自分自身を責めてしまうことがあります。相互に愛情が深ければ深いほど、自分の至らなさに苦しむことが多いものです。人間同士の付き合いですから、齟齬がなかったなどとはあり得ないことでしょう。限界がある

ことを理解しても、そのことで苦しむ人がいます。けれども、「主は与え、主は奪う」とヨブ記にありますように、生も死も神の計画の中にあるのです。神が彼を求めたことを受け入れて、愛する人を神の手に委ねる道へと導かれるようにと心から願っています。

人間として生まれた時から、死ぬことだけは定まっています。私たちが願ったから生まれたのではなく、死なないことを願っても、必ず死にます。私たちの生には限りがあります。生まれた時には無意識でした。始まりにおいて、私たちの意志、思い、意図を超えて、ただ与えられた命であるということです。死ぬ時は意識不明になるのでしょうか。終わりににおいても、いつ、いかようになど、私たちの願い、計画を超えて、死の時が与えられるのです。けれども私たちは、「産めよ、増えよ、地に満ちて、地を従わせよ」と神様が用意して下さった祝福の賜物があふれている場の中に置かれたことを感じます。イ・ミンソブの「君は愛されるために生まれた」という詩があります。神様の満ち溢れる愛があるのだということを歌っているのではないのでしょうか。悲しみだけではなく、喜びや感謝の日々も、私たちに用意されています。



ニッコウキスゲ



ツガの松ぼっくり

毎日、戦争や事故で命を落とす人々のニュースが絶えません。本当に悲しく、残念なことです。人生は長いからこそ良いとは言えないでしょうけれども、命が暴力で奪われることは、絶対にあってはならないと思います。計り知れないほど神秘的な、人生の短い間を、愛することができて、愛されたという喜び、出会いを味わうことが、生きているということではないのでしょうか。せめて私は生きていることを感じられる今、寂しい時も、悲しい時も、目に見えない神様からの賜物に目を注いで、生きていきたいと思います。